

AQUA JOURNAL

288

vol.

AQUA JOURNAL
Nature Aquarium
information magazine

OCTOBER.2019
100YEN



NATURE IN THE GLASS

失われた湯／古木と芽吹き

ADA EVENT REPORT

天野 尚展／湯の記憶展

ENJOY DOOA

夏の湯をイメージしたシンプルな日本産水景

みくさFOCUS 第23回

「もうすぐ液体培地に」

ネオグラス エア スタイル #11

Plant Art Studio #23

ADA EVENT REPORT

「天野 尚展 自然を愛するすべての人へ。」

写真・文／編集部

大自然と水景の融合空間が出現

去る8月7日から19日の13日間にわたり新潟伊勢丹で開催された「天野 尚展 自然を愛するすべての人へ。」は、開催がお盆の時期を含む夏休みに重なったこともあり、期間中1万3千人の来場がありました。この展覧会は、今年で没後4年を迎えた天野 尚の創作活動を振り返り、「できるだけ多くの人に自然に興味を持ってもらいたい」という生前の天野の思いを広く知っていただくという趣旨で企画されました。また、今年は新潟伊勢丹が開店35周年を迎えた年でもあり、その記念事業

として同店での開催となりました。天野は写真家として、そして水景クリエイターとして長年にわたり創作活動を続けてきましたが、今はその両方の活動が体感できるように、生態風景写真と水景写真的大判パネルに加えて、実物のネイチャーアクアリウムの水景展示も行われました。これらの水景は、天野の意志を引き継いだADAの水景クリエイターが制作したもので、来場者の皆様にも好評をいただいたようです。その中から1つの水景を本誌の誌面でも紹介しています。また、会場には天野が愛用してきた大判カメラのほか、世界各地で収集した民具やアンティークの銘品も展示され、来場者の関心を集めました。



7Fメイン会場には天野愛用の大判カメラも展示。これらの大判カメラで風景と水景、たくさんの名作写真が撮影された。



新潟伊勢丹開店35周年記念として開催されたこのイベントでは、3フロアにわたり多彩な展示が行われた。上写真は2F入口部分。

天野作品の
魅力を引き立てる
立体的な展示



天野自身が世界各地で集めた銘品の数々。物珍しさもあり、来場者の目を引いたようだ。



会場には実物のネイチャーアクアリウムも展示。来場者からは好評を博した。



創作活動にまつわるさまざまなエピソードも、本イベントの見どころの一つ。



6F特設会場では、創作活動の様子を収めた映像の上映、プライベートカットなども多数展示された。

今回のAJでは、この夏開催された2つのイベントと、そこで展示された水景を紹介します。まずは、新潟伊勢丹で開催の「天野 尚展」から、夏休み中ということもあり大盛況だった会場の様子をレポートしましょう。

風景と水景
天野の2つの
創作活動に迫る

NATURE IN THE GLASS

Daisuke Inoue

木々の壮大さと
新しい生命の勢いを表現
悠久を感じる水景

【古木と芽吹き】古くから森の中で生きる木々の壮大さと、新たに芽吹く生命の勢いをテーマにした水景。森の古木は長い時の流れに倒れながらも、うねるように枝や根を伸ばし、その肌は苔に覆われている。そんな古木の周りではたくさんの新しい植物が芽吹き、さらにツル植物が古木や石にからみつく。そんな情景をイメージし、深緑色のモスと明るい水草の色彩的な対比で表現している。多様な植物が時の流れによって共存していく様子からは、悠久の時を経て変わらずあり続ける古木にも、新しく芽吹いた植物にも、また違った生命力の強さを感じられないだろうか。



©AQUA DESIGN AMANO

DATA

撮影日	2019年8月2日(ADA)
制作	井上 大輔(レイアウト制作・文)
水槽	キューブガーデン、W180×D60×H60(cm)
照明	ソーラーRGB ×3(1日8時間30分点灯)
ろ過	スーパー・ジェットフィルターES-2400(バイオリオL)
素材	ホーンウッド、山水石、DOQA トロピカルリバーサンド
底床	アクアソイル・アマゾニアII、ワーターサンド・アドバンスL、パクター100、クリアースーパー、トルマリンBC

C O 2	パレングラス・ビートル500、ビートルカウンターで1秒に5滴(タワー使用)
A I R	リリバパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
添加剤	ブライティK、グリーンブライティ・ミネラル、グリーンブライティ・アイアン、グリーンブライティ・ニトロ
換水	1週間に1度 1/3
水質	水温25°C pH:6.6 TH:20mg/L

水草	化び草 オーストラリアン・ヒドロコティレ BIOみずくさの森 コブラグラス BIOみずくさの森 ローター・マ克拉ンドラ BIOみずくさの森 ローター・マクランドラ グリーン アマゾン・チドメグサ タイガー・バリスネリア ヴィロー・モス(モスバッグ)	Hydrocotyle sp. <i>Lilaopis "Nova zelandiae"</i> <i>Rotala macrandra</i> <i>Rotala macrandra "Green"</i> <i>Hydrocotyle leucocephala</i> <i>Vallisneria spiralis "Leopard"</i> <i>Taxiphyllum barbieri</i>	魚種	ジャイアント・ダニオ サイアミーズ・フライングフォックス オトシンクルス ヤマトヌマエビ
				Devario malabaricus <i>Crossocheilus oblongus</i> <i>Otocinclus sp.</i> <i>Caridina multidentata</i>

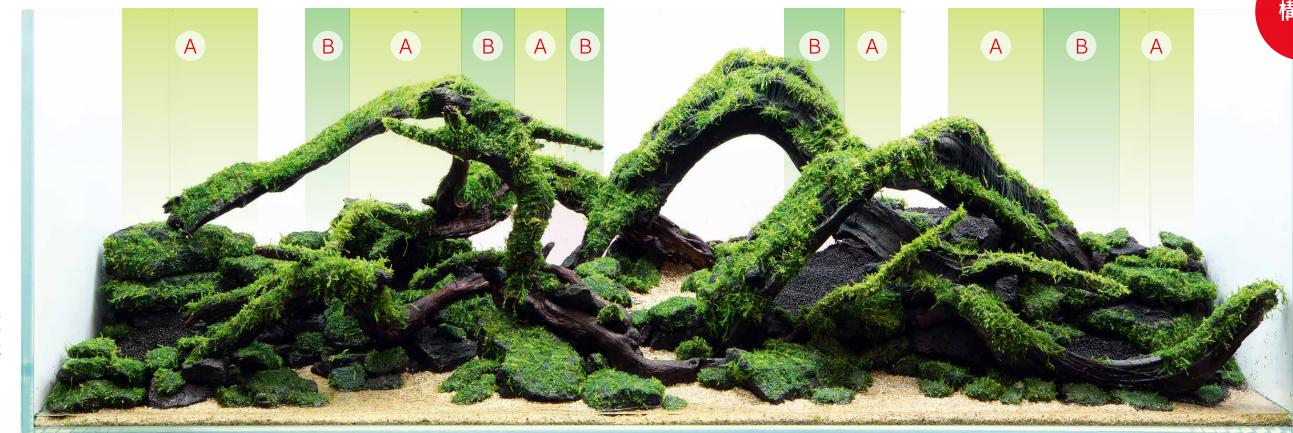
曲がりくねった流木と山水石で表現した悠久と自然の生命力

このレイアウトでは、古くから変わらずあり続ける自然の姿と、新たに誕生する自然の姿という異なる2つの時間の流れをテーマにしています。このテーマを実現するために、まずはベースとなる構図で長い間そこに生き続ける自然の生命力を表現することにしました。そこで参考にしたのが屋久島の風景です。樹齢千年を超える屋久杉は幹や根が大きくなり、苔や着生植物を身にまといながら生き続けています。そんな古木の様子を曲がりくねった古い流木とモスで表現しました。また、流木の周りにはモスを巻きつけた山水石を配置し、屋久島の風景を表現しています。前景には化粧砂を敷いていますが、これらの山水石は背景のアクソイルと化粧砂の仕切りとしての役割も兼ねています。



流木のうねりで生命力を表現

長く生き続ける古木の生命力を、曲がりくねった流木を使って表現。空の水槽に流木を組み、大まかな構図を決めていく。流木の下に石を置き、高さを調節する。



流木と山水石の構図

うねるような流木と山水石が複雑に組み合わさった構図が完成。中央の流木下にできた空間に続くように化粧砂を敷いた。2019年3月7日 撮影



植栽スペースのパワーサンド

山水石を組んだ石垣の後方は有景草などの植栽スペースとなるため、パワーサンドを敷いた。

モスを巻いた山水石を配置

山水石にあらかじめモスを巻いておき、それを山水石を石垣状に組む際に使った。こうすることで石垣全体にモスが広がり、鬱蒼とした雰囲気となる。



流木にモスを巻き付ける

苔に覆われた古木を表現するため配置した流木全体にモスを巻き付ける。流木にモスを薄く広げ、モスコットンを巻く。モスが乾燥しないように常に霧吹きで水分を補給。



空間を生かす化粧砂

中央の流木下にできた空間を生かすように、中央奥の高い位置に化粧砂を敷いたスペースをつくる。高低差をつけることで底床が立体的になり、遠くまで続く空間が表現される。

5

背景の水草の配植

背景は有茎草Ⓐとテープ状の水草Ⓑを交互に配植することで、2つのテーマが共存していることを表現した。テープ状の水草はずっとそこにあり続ける植物のイメージ、有茎草は新しく芽吹いた植物のイメージで選んだ。



チドメグサでツル植物を表現

モスを巻き付けた流木や石の隙間にチドメグサの仲間を挟みこみ、古木や岩にからみつくツル植物を表現する。チドメグサの仲間は旺盛な繁殖力で周囲に広がっていく。



細かい植栽スペースを確保

石垣を細かくつくることで数多くの植栽スペースをつくり、水草の配植が単調になるのを回避した。緑の濃いコブラグラスは、林床を覆う下生えの植物のイメージで植栽。



2つの時間の流れで表現する原始の森

悠久

1



苔で覆われた森の底の景観をつくるため、流木の周りにモスを巻いた石を多めに配置。構図骨格は全体に暗い色にしたかったので、石は山水石を使用した。



古くからそこにあり続ける自然の姿



2

流木は古いものを使用

年月を経た古木の肌の質感を表現するため、流木は新しいものではなく、レイアウトに何度も使われた古いものを使用。古い流木はアクが出てにくく、水質の管理もしやすい。

モスバッグ



3



苔で悠久の時の流れを表現

流木の表面には深緑色のウイローモスを巻きつけ、色彩的にも悠久の時の流れを表現。ここではモスバッグ入りのウイローモスを使用している。



©AQUA DESIGN AMANO

完成



有茎草で爆発的な生命力を表現

明るく鮮やかな色の有茎草を使うことで、色彩的に新しく芽吹いた植物のみずみずしい生命力を表現。深緑色の苔やテープ状の水草で表現した悠久の時との対比となっている。

4

5



BIOみずくさの森
ロターラ・マクランドラ



BIOみずくさの森
ロターラ・マクランドラ
鮮やかな赤の発色が特徴的なロターラ・マクランドラは、環境の変化によって植栽後に溶けやすい有茎草だが、BIOみずくさの森を用いることで溶けることなく健康に生長した。

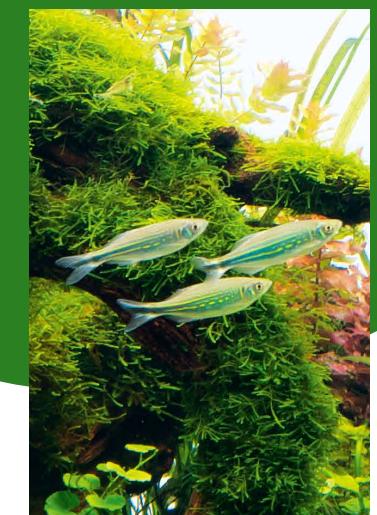
新しく芽吹いた植物
芽吹き



チドメグサで旺盛な生命力を表現

佗び草 オーストラリアン・ヒドロコティレをモスを巻いた山水石の間に配置。ランナーがモスの上をはうように生長し、何にでも巻きつくツル植物のような旺盛な生命力が感じられる。

7



ワイルドな印象のジャイアント・ダニオ

水景が原始の森をイメージしたものだったので、魚もワイルドな印象のものを選択。ジャイアント・ダニオは体側の不規則な模様が印象的。

在りし日の
鎧潟の姿に
想いを馳せる

この夏、新潟伊勢丹で開催の「天野 尚展」と並行して、新潟市の砂丘館で開催された「潟の記憶展」(2019年10月6日まで開催)。こちらの企画展は、かつて新潟県西蒲原郡(現在の新潟市西蒲区)に存在した鎧潟に関する写真や絵、詩、実際に使用されていた漁具などの展示を通して在りし日の鎧潟の姿を振り返るというもので、天野 尚の風景写真のほか、ADAも水景や水辺植物などの展示で協力しています。砂丘館は昭和8年に建てられた旧日本銀行新潟支店長役宅の愛称で、現在は

一般に公開されています。その和洋折衷の趣のある日本家屋に、鎧潟の自然をイメージした水景や水辺植物をあしらった鉢物、天野のコレクションからアンティークの金魚鉢などが展示されました。天野がエッセイなどではしばしば触れていたように、鎧潟はネイチャーアクアリウムの原点と言えます。その鎧潟をテーマにした企画展に実物のネイチャーアクアリウムが展示されたことには、感慨深いものがあります。展示された水景は本誌にも掲載していますので、ぜひご覧ください。



砂丘館「潟の記憶展」—そこでは風土と生活と人がいつも握手していた—

写真・文／編集部



砂丘館の「潟の記憶展」において、ADAは鎧潟をイメージした水景を展示。昭和モダンの室内空間で見る水草の緑は新鮮に映る。

ADA EVENT REPORT

潟の自然や
生活を振り返る
多彩な展示物



この企画展では写真や絵画のほか、潟の自然をイメージさせる水草や水辺植物、鎧潟で実際に使用されていた船や漁具も多数展示された。

水槽が溶け込む
和風と洋風の室内空間



天野が好んで集めたアンティークの金魚鉢。こちらは日本のアクアリウム文化の原点であり、当然、和風の空間にマッチする。

昭和初期の建物と最新のシステム水槽。時代は大きく異なるが不思議と溶け込んでいる。

新潟市の砂丘館で開催中の「潟の記憶展」。この企画展では鎧潟に関する写真や絵、詩、漁具などが多数展示されていますが、ここではADAが協力した展示を中心に紹介します。特に鎧潟をイメージした水景は注目です。



鎧潟の記憶
ネイチャーアクアリウムの
原点を求めて

在りし日の鎧潟をイメージした水景。魚には外来種も
含まれているが、これらは干拓前の鎧潟に生息して
おり、特にチョウセンブナは中学時代の天野がその
繁殖生態を研究するなど思い入れの強い魚である。

失われた鎧潟を再現 水草がつくる 魚たちの隠れ家

【失われた潟】この夏、新潟市の砂丘館で開催されている「潟の記憶展」は、写真や絵画、実際に使われていた漁具などによって失われた鎧潟を振り返るという趣旨のものである。そこで展示する水景の制作を依頼されたとき、真っ先に思い浮かんだのが少年時代の天野 尚が見たという鎧潟の水中を再現することだった。水中に生い茂った水草が光合成を行い、魚たちがその水草の茂みを隠れ家にしている。在りし日の鎧潟の水中で繰り広げられていたその美しい光景は、幼い天野に大きな衝撃を与えた、ネイチャーアクアリウムの発想につながったといふ。その光景を想像しながら、潟の水中を覗き込んだようなイメージで制作した。水草が育つ潟の環境は、多くの生命を育む重要な場所でもある。

©AQUA DESIGN AMANO

DATA

撮影日 2019年7月30日(ADA)
 制作 本間 裕介(レイアウト制作・文)
 水槽 キューブガーデン W90×D45×H45(cm)
 照明 ソーラーRGB ×1(1日8時間30分点灯)
 ろ過 スーパージェットフィルターES-600
 (バイオリオM)
 素材 山水石、ホーンウッド
 底床 アクアソイル-アマゾニアⅡ、アクアグラベル、
 パワーサンド・アドバンスM、バクター100、
 クリアスバー、トルマリンBC
 CO₂ バレングラス・ビートル400、
 ビートルカウンターで1秒に5滴(タワー使用)
 AIR リリィパイプP-4によるエアレーション
 夜間消灯時15時間30分
 添加剤 ブライティK、グリーンブライティ・ミネラル、
 グリーンブライティ・アイアン、ECA・プラス
 換水 1週間に2度、1/3
 水質 水温25°C pH:6.4 TH:20mg/L
 水草 ■水中部

トイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>
カンガレイ	<i>Schoenoplectus triangulatus</i>
ミズオオバコ	<i>Otelia alismoides</i>
キクモ	<i>Limnophila sessiliflora</i>
ヒロハノエビモ	<i>Potamogeton perfoliatus</i>
クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i>
ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i>
ホソバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastato-auriculata</i>
ヘアーグラス	<i>Eleocharis acicularis</i>
カズノゴケ(リシア)	<i>Riccia fluitans</i>
ヤナギヌタ	<i>Blyxa japonica</i>
ヤナギモ	<i>Potamogeton oxyphyllus</i>
マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>
ミヅハコベ	<i>Elatine triandra</i>
ウィローモス(モスバグ)	<i>Fantinalis antipyretica</i>

■水上化び草部分	
ノチドメ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>
サクラタデ	<i>Persicaria odorata subsp. conspicua</i>
ホソバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastato-auriculata</i>
セリ	<i>Oenanthe javanica</i>
ウイローモス(モスバグ)	<i>Fantinalis antipyretica</i>

魚種	
ノチドメ	<i>Taeniopygia maculata</i>
サクラタデ	<i>Crossocheilus oblongus</i>
ホソバノウナギツカミ	<i>Otocinclus sp.</i>
セリ	<i>Caridina multidentata</i>
ウイローモス(モスバグ)	<i>Fantinalis antipyretica</i>



日本産水草を活用し 潟の水中景観と エコトーンを再現

このレイアウトは、潟の自然を再現するため、流木や石などの構図素材はあまり主張させず、水草をメインに構成しています。その際、天野から聞いていた鎧潟の自然のイメージと、制作者自身が幼いころに体験した水辺のイメージを融合してレイアウトのイメージを膨らませました。潟に潜って見た水草の茂みの奥に広がる魚たちの世界を表現するため、通常はレイアウトの手前に敷く化粧砂を奥のほうに敷き、葉がやや長く伸びるヘアーグラスや抽水植物のカンガレイを手前に植栽しています。一見、ネイチャーアクアリウムのレイアウトセオリーに反しているようですが、こうすることでレイアウトの奥のほうが明るくなり、水草の茂みの奥に空間が広がっているように感じられるのです。

3



下草の植栽

潟の水底にあたる部分には、下草としてヘアーグラスやミヅハコベを植栽。これらの水草は明るい環境を好むため、影ができないように上のほうの水草を管理することが重要になる。

1



上層

2

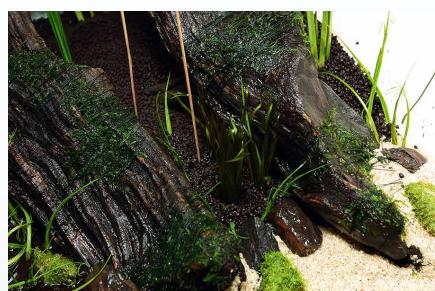


中層

抽水植物も活用

カンガレイやフトイなどの抽水植物を植栽し、水中から水上部分の佗び草へのつながりを持たせた。これらの抽水植物は、水上に十分に葉を展開させることで長期的に育成が可能となる。

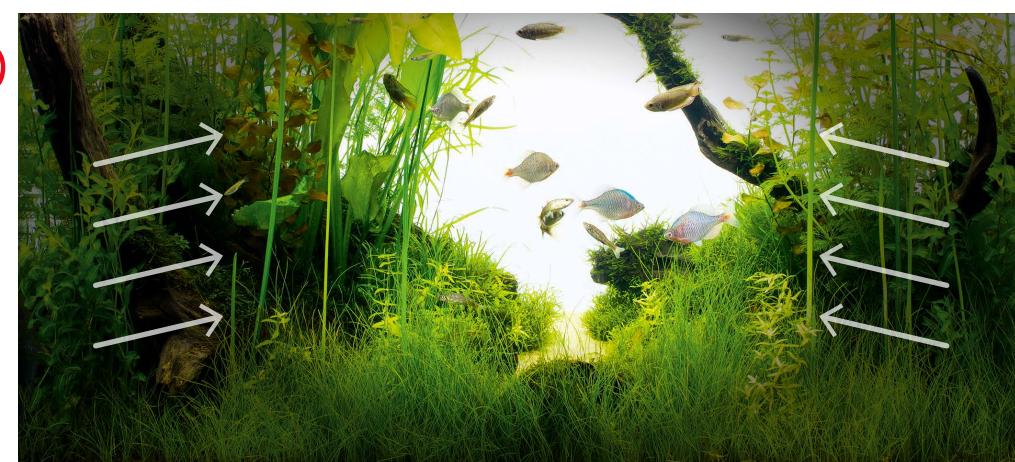
4



中景の植栽

潟のイメージを表現する上で一番難しいのが中景。一般的なレイアウトではシダ類やアヌビアスが活躍するが潟には存在しない。今回は中景にヤナギスブタや有茎草を植栽した。

5



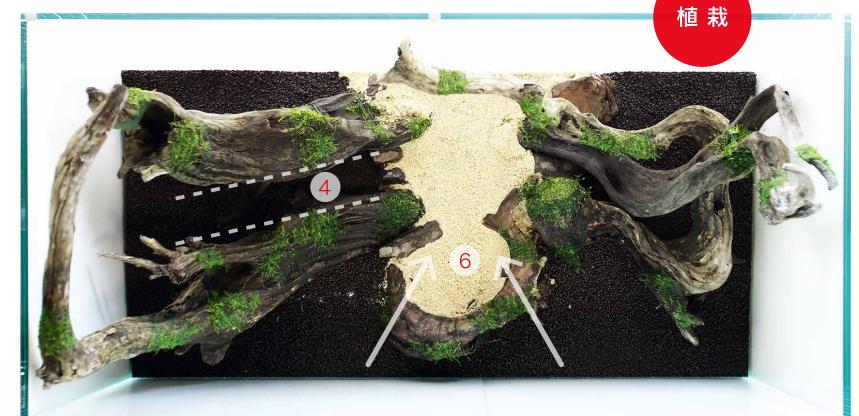
佗び草でエコトーンを再現

水上部分の佗び草は日本産のノチドメ、セリ、サクラタデ、ホソバノウナギツカミによる特別仕様。佗び草ハンガーを用いてちょうど腰水程度の高さになるように設置した。

視線を誘導する配植

水景の周囲には色の濃いヒロハノエビモ、クロモ、ミズユキノシタを植栽し、中央部分にはミスオオバコやリシアなど明るい水草を植栽することで中央に視線を誘導する配植になっている。こうすることで魚の遊泳空間が際立ち、観賞者は魚たちが戯れる隠れ家をそつと覗いているような感覚になる。

植栽



6

中央に設けた遊泳空間

レイアウトの中央、やや手前には魚の遊泳空間になるように、化粧砂を敷いた丸い空間を設けた。可憐な水草の奥で魚たちがゆったり泳ぐ姿は、きっと私たちの心を豊かにしてくれことだろう。



今回は構図や造形的な美しさよりも日本産水草の美しさや潟の自然感を表現することを優先し、流木はあえて形にはこだわらなかった。

2019年6月28日 撮影

©AQUA DESIGN AMANO

小さな水槽から広がる
夏の潟のイメージ
シンプルな日本産水景

この水景も「潟の記憶展」のために制作したもので、日本産の水草と魚を用いて在りし日の鎧潟の自然をイメージしている。システムアクア30はレイアウトができる空間が限られているため、メンテナンス性も考え、一本の流木を仕切りにアクアソイルと化粧砂を敷き分け、水草も5種類のみでシンプルに構成した。また、内蔵フィルターの出水部や背景部分に透けるろ材の影が目立たないように、流木の配置や水草の配置を工夫している。さらに、今回の展示場所のイメージに合わせ、システムスタンド35に設置した際の縦のラインを生かすように、水上に葉を長く伸ばすフトイを生け花的にあしらつてみた。きらきらと揺らぐ水面から見える水草や魚影が、夏の潟の風景を思い起こさせる。



[SYSTEM DATA]
 ○アクアスカイG301
 ○システムアクア30
 W30×D30×H30(cm)
 ○システムスタンド35
 ○CO₂システムキット
 ○CO₂カウントディフューザー_○
 ○NAサーモメーターJ-05WH
 (5mm厚用)
 ○NAコントロールタイマーⅡ
 ○トロピカルリバーサンド
 ○水景リキッド

[水草]
 フトイ
 キクモ
 BIOみずくさの森 ヘアグラス
 BIOみずくさの森 リシア
 ウィローモス(モスバッグ)

[魚種]
 タイリクバラタナゴ
 メダカ
 オトシンクルス
 ヤマトヌマエビ

2019年7月18日 撮影(ADA)
 レイアウト制作 文 本間 裕介
 ©AQUA DESIGN AMANO



システムアクア30にマッチする新水槽台

今回の水景は新製品のシステムスタンド35に設置。この水槽台はシステムアクア30とシステムテラ30用に開発されているので、シンプルなデザインがよくマッチする。

みづくさ

FOCUS

第23回 文・佐藤 正浩

「もうすぐ液体培地に」

ひと昔前は水草といえば鉛巻きの販売形態が主流でしたが、今では「みづくさの森」に代表される 固形培地を使用した組織培養の水草が大半を占めるようになりました。その組織培養の水草もさらに 使いやすさを追及して、固体培地から液体培地へと進化を遂げています。



現行の固体培地では、植栽の際に培地を取り除く必要があります。

液体培地では、カップの中に栄養素の入った液体が入っており、その液体で水草が成長します。水草を小分けにしてそのまま植栽できます。



現 在「みづくさの森」のラインナップのはほとんどは固 形培地を使用したものになっていますが、ショ ト・ヘアーガラスとグリーン・ロターラは液体の培地を 使 用 し た 形 態 に 切 り 替 わ っ て ま す。液 体 培 地 の 大 き な 違 い は、植 栽 の 際 に 固 形 培 地 を 取 り 除 く 手 間 が い ら な い とい う 点 で す。実 践 ユ ー ザ の 皆 様 か ら は、固 形 培 地 を 取 り 除 く 手 間 が 省 け て 使 い や す い とい う 声 を 頂 い て お り ま す。わ ず か な 手 間 の よ う で す が、実 践 に 植 栽 す る とき の この

ひと手間の違いは大きいと思います。今までカップから水草を取り出して、水を張った容器の中で固体培地を取り除いていたのが、カップからそのまま植栽できるのは大きな進歩だと思います。そんな「みづくさの森」の液体培地シリーズですが、クリプトコリネのアクセルロディ、ウェンティーグリーン、ウェンティロピカで発売を予定しています。その他の種類も随時液体培地へと切り替えていきますのでご期待ください。

NEOGLASS

AIR
ネオグラス
エア
スタイル

STYLE #11

清流に佇む

Text_Kota Iwahori

涼を感じるレイアウトはシンプルにまとめるこ と が、1つのポイントとなります。その中でも、細か な こ と で 完 成 度 は 高 く な り ま す。こ こ で は、サ イ ズ の 異 な る 化 粧 砂 を 使 う こ と で、清 流 の 川 床 を 表 現 し て い ま す。夏 の 勢 い に よ う や く 身 体 が 飼 漆 で き た こ と に は、も う 夕 暮 れ は 日 に 日 に 短 く な り つ あ る よ う で す。しか し、水 辺 は 生 命 に あ ふ れ て お り、無 数 の ア カ ネ が 空 を 舞 い、初 夏 に は か 細 か た 里 川 の ア ユ も い つ の 間 に か た く ま し い 姿 に な っ て い ま す。ふ と、岸 に 目 を 向 け ば 清 流 と 共 に さ ら さ ら と ヨ シ も 涼 しげ に な び い て い ま す。

DATA
ネオグラス エア W30×D18×H12(cm)
[底床]
トロピカルリバーサンド
玉砂利
[植物]
ヒメアシ
制作／本間 裕介



PLANT ART STUDIO

プラント アート スタジオ



エキノドルスの深紅の葉と水紋を印象的に一発撮りしました。

Photo & Text／本間 裕介

Echinodorus 'Junglester No.1'

23

INFORMATION

NATURE AQUARIUM PARTY 2019

Oct 19^{SAT}-20^{SUN}, 2019 in NIIGATA

会場: ANAクラウンプラザホテル新潟

アクアデザインアマノ 本社

ADA
aqua design amano

ネイチャーアクアリウムパーティー2019生中継!

2019年10月19日(土)開催される「ネイチャーアクアリウムパーティー2019」の模様をYouTube Liveにて生中継いたします。当日会場にお越しいただけない皆様は、このライブ配信で年に一度の水草レイアウトの祭典を楽しみましょう!

▼ライブ配信予定日時

2019年10月19日(土) 13:30 ~

※ライブ配信の開始時刻は当日の状況により予告なく変更となる場合があります。

※なお、通信回線の状態やその他の原因において、映像が乱れるなどの不具合が生じる場合もございます。
ご了承いただけますようお願い申し上げます。

ライブ配信チャンネル

<http://www.youtube.com/user/aquadesignamano>



オーダーキューブガーデン はじめました!

キューブガーデンの特注サイズの製作が可能になりました。高品質のクリアガラスでつくられた大型のキューブガーデンです。W120cm以上の水槽サイズからオーダーできます。

シリコン
剥離
保証あり

納期
約3ヵ月

サイズは
5cm刻みで
指定可能



詳しい内容については弊社営業部までお気軽にお問い合わせください。 TEL / 0256-72-6666

STAFF CREDIT

AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2019 Printed in JAPAN

Publisher

天野 しのぶ

Art Direction

NATURE AD DESIGN

Design

丸山 悟司／市川 亮／板橋 広夢

Published by

株式会社 アクアデザインアマノ

Printed by
株式会社 山田写真製版所

<https://www.adana.co.jp>

NEXT AQUA JOURNAL

NOVEMBER.2019 vol.289 / 2019年10月10日(木)発売予定

アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。

ADA、 或いは、 それ以外か。

世界のアクアリストを魅了し、支持され続けるADA。

その製品には、創業者 天野尚の強い思いが宿る。

独自のレイアウトスタイルを確立する過程で

必要な育成器具を試行錯誤のなか開発し、

30年以上もの間、ネイチャーアクアリウムをつくり続けてきた。

ADA製品には、その歴史がある。

ストーリーがある。

その製品開発の姿勢は、今も変わらない。

その姿勢、精神こそが、私たちADAのプライド。

A Pioneer's Pride.

私たちは約束します。

ADAブランドを守り継ぐこと。

